林中地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和8年7月17日（金）19:00～
開催場所	林中コミュニティセンター
参加者	8名（市長、コミュニティ林中、北消防団松南分団、JA 松任青年部松南支部林中地区）
選択トピック	若い世代が見つける地元の魅力と伸ばし方 1. 各種団体のなり手不足と組織運営の課題 2. 若い世代の定住と地域参加 3. 地区と学校の連携



2. 主な議題と意見

（1）各種団体のなり手不足と組織運営の課題





① 現状

- 林中地区は 4000 人弱の人口がいるにもかかわらず、各種団体の役職に手を上げる人が少ない状況にある
- 地区協議会会長の選出時に非常に苦戦し、センター長の選出時も 20 回以上の会議を重ねるなど、各団体が苦労している
- 地区協議会会長は昨年 130 日間、市の町会連合会で約 20 日間、自分の町内で 30～40 日間、合計 180 日程度、2 日に 1 回何かがある状況である

② 課題

- 現在の運営側にも課題があり、各種団体の運営やイベント企画の方法が、新しい世代が入りにくい構造になっている（老人会、壮年会、PTA 連合会など複数の階層的な組織があり、会長になると県、市、地区など複数の組織に顔を出さなければならず、役職が連続して当たり続ける仕組みになっている）
- 老人会や地域行事に参加するのは高齢者ばかりで、若い世代が参加しておらず、世代間のギャップがあり、また、高齢者が 70 代で炎天下での作業を強いられるなど、無理な負担が生じている
- 地区の行事が多く、現役世代の負担が大きい
- 30 年前は団塊の世代が多く元気でやる気もあったが、今は高齢化が進み、若い世代の人数が減少している

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 各種団体の仕組みを変えていく必要があり、上の組織に入ると役職が続く仕組みを整理する必要がある
- 防災士会の新組織体制については、地区からの役員選出の負担を考慮していく
- 他地区でミライ会議を通じて、思い切って若い人に任せ出したところもあるが、若い方たちの組織化や地区の文化を踏まえ、段階的に進める必要がある

（2）若い世代の定住と地域参加





① 現状

- 若い世代が魅力的なイベントや組織運営に参加すれば、自然に役職を担うようになる可能性がある
- 若い人の発想は素晴らしく、自由な発想で新しいことを思いつく傾向がある

② 課題

- 若い世代が地区に定住しにくく、定住者を増やすことが課題である
- 市街化調整区域や農業振興地域の制限により、農地を簡単には宅地に転用できず、既存の町内に新規住民が入りにくく、新しい団地の方が若者にとって入りやすい

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 定住促進の施策として、補助金などの施策を実施している
- 区画整理事業により新しい団地を整備し、定住者を増やす施策を進めており、都市計画は 10 年に 1 回見直しており、数年後に見直しを予定している
- 住むところだけでなく、働く場所がないと住み続けられないため、工業団地も多く整備し、道路整備も同時に進めており、南北の高速道路、国道 8 号の 6 車線化、海側環状線、金沢外環状道路の立体交差などを取り組んでいる。林中地区を通る東西の道路を要望し、同盟会を作って要望活動を行っている

（3）地区と学校の連携





① 現状

- コミュニティスクールの取り組みが進められており、地区との連携が深まりつつある
- すべての学校でジオパークの学習が行われており、子どもたちが地区を探検したり、地区のことを調べたり、地区の組織の人と関わったりしている
- 昔は学校と地区の交流の場があったが、コロナ禍で減少している

② 課題

- 学校と地区の連携が弱く、防災などの場面では、学校が地域に対して閉ざされたような雰囲気になっている

- 壮年会の加入者が減少する中で、青年や子どもたちとのつながりが重要であり、小学校、中学校、高校での継続的な世代間のつながりが必要である

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 教育委員会側からも、学校と地区との連携をもっと深めるよう言っており、行政としてもしっかり取り組んでいく方針である
- 松任高校の生徒が地区の祭りに参加するなど、学校と地区の連携が進みつつあり、小中学校ではコミュニティスクールの取り組みをしっかりとやっていく
- 若い世代には「地域を良くしたい」「できることがあれば協力したい」という思いを持つ方も少なくなく、地域コミュニティ組織がその橋渡し役となり、行事や活動を通じて郷土への愛着を育むことが期待されており、市も支援していく

3. まとめ

林中地区は、デジタル技術を積極的に活用し、組織内の情報伝達の迅速化・労力削減・正確性の向上に取り組み、活動内容の見直しを図りながら負担を減らす工夫を行い、若い人たちが参加しやすく、定住しやすい地域づくりを目指している地区です。

今回のミライ会議では、「各種団体のなり手不足」という課題を中心に、若い世代の定住と地域参加、そして学校と地区の連携について、話し合いました。

市としましては、人口減少を見据え、定住促進のための補助金制度、区画整理事業による新しい団地の造成、インフラ整備、工業団地の整備など、市全体としてバランスよく施策を進めていることを説明しました。

さらに、学校と地区の連携についても、コミュニティスクールやジオパーク学習を通じた取り組みを進めており、少子高齢化の現状の中で、事業の見直し・スマートシュリンク（賢く縮む）の必要性について、地域と市が協力して課題解決に取り組むことを確認しました。

